平成２６年度北海道鵡川高等学校学校評価

評価結果の見方
評価項目に対する評価Aを3点、Bを2点、Cを1点、Dを0点として集計し、その平均でABCDと載せています。

A＝3.0～2.25　B＝2.24～1.5　C＝1.4～0.75　D＝0.74～0

領域	対象	番号	評価項目	評価項目細目	学校自己評価	改善・充実の方策	学校関係者からの評価	
							学校自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
	学習指導	①	主体的・意欲的学習態度の育成を図る。学力の向上に取り組む。	授業改善に努め、工夫のある授業を展開した。 「吹きこぼし」を作らない指導を工夫した。 補習授業の実施により、生徒の意欲を喚起することができた。	B	・教員それぞれが自信の授業を顧みることが必要。 ・全体が参加する研修会を開く。指導主事訪問の時は、該当教科以外の先生方からも意見を聞く場を設ける。 ・さらに自分の知識を深める。 ・研修に参加する。 ・授業時間50分を十分に活用できなかったことが多いので、さらに改善が必要。 ・生徒の発言を促すように工夫する。 ・補習授業において、個人のレベルに合わせた内容で理解の充実を図る。 ・生徒が補習について軽く考えている（欠席・頭髪の不備）。教務や担任からの指導を充実していく。	B	B
		②	授業規律の徹底を図る。	チャイムとともに授業を開始するよう、早めの行動を心がけた。 生徒の興味･関心を引き出す授業で、中抜けや早退の生徒を減らせた。	B	・教員間でバラツキがあるので、意識を持って取り組むべきである。 ・特に考査一週間前には全体で働きかける。 ・もっと早く授業に行くことを心がけたいです。 ・心がけることで効果があることを実感できた。 ・5分前に移動するよう心がけた。 ・作業のみ、説明のみといった展開を避け、能動的に取り組むことのできるアクティビティを増やす。 ・教員間でバラツキがある。意識を持って取り組むべきである。 ・回数の多い生徒については、保護者へ連絡し、対応する。 ・特定の授業で多いため、教員と生徒が共通意識を持つ。	A	B
		③	家庭学習の習慣化に取り組む。	学習状況調査の実態を踏まえ、家庭学習の習慣化を促す課題を与えた。 家庭で学習する必要性や重要性について、生徒・保護者に啓発してきた。	C	・実際の効果は少ないので、継続的な指導を行う。 ・ワークなどの教材を課題とし、生徒が回収・点検を行い、主体的に取り組む体制を作る。 ・家庭学習せざるを得ない状況を作り、取り組ませるようにする。（宿題を増やし、提出物として成績に反映させる など） ・家庭学習をするのが当然ではない生徒だから、”する意識”や取り組み方を教えるところから始める。	B	B
		④	中高一貫教育の推進と充実に取り組む。	中高間の接続が円滑になるよう、連携入試の改善を図った。 学習の連続性を検証するため、中高間での教科打合せが行われた。	C	・事前学習をとおして少しではあるが連携できたので、継続していく。中高での教科打合せを行い、中学校との関係づくりをする。 ・学習のまとめの指導 ・中高の教員同士が情報共有を行う場を増やす。 ・教科部会を定期的に開く。 ・中高全体会で教科会議（打合せ）の実施。 ・場を設定する。	C	C
	学校関係者の意見等			・生徒がしっかりと学習に取り組むよう、指導をお願いします。 ・家庭も協力することが大切だと思います。				

教育活動 基本評価項目

	番号	評価項目	評価項目細目	評価	改善・充実の方策		
	⑤	基本的生活習慣の確立に取り組む。	職員が共通理解のもと、生徒指導に取り組めた。 生徒と接する様々な場面で、指導を行ってきた。 校内巡視の機会に、生徒観察と声かけに努めてきた。	B	・指導における明確な基準ができておらず、職員間で指導にズレが生じていたので、基準の確立が必要である。 ・教員間に意識、理解の差。 ・全体での動きになるような工夫が必要。 ・意識の統一。基準が明確でない。前はだめだったことが、いつのまにか良くなっていたりする。人によって対応のしかたが違う。 ・共通理解に差がある。 ・差はあるが、取り組めるようになった。これからさらに協力・連携が必要。 ・教員間に意識、理解の差。 ・今は挨拶による声かけがメインになっているので、服装指導も意識して行っていく。 ・声かけの中で、食べ歩き・飲み歩きについてなど。 ・教員間に意識、理解の差。 ・声がけをする生徒を限定することのないよう、幅広く声をかける。 ・巡回は続けるべき。	A	A
生徒指導	⑥	いじめへの対応	いじめ等に対応するため、アンケート結果を有効に活用した。 教育相談活動の充実が図られた。	B	・アンケートを一部分でもいいので共有する機会を設ける。 ・教育相談活動をより多く経験し、活動の機会を増やしていく。 ・行った。方法等は今後も検討。 ・一斉に行うことで、全生徒に教員と話す機会ができて良かった。 ・もっと面談などの機会が全職員にあれば良い。	B	B
	⑦	生徒の主体的な活動を支援する。	生徒による主体的な運営や日常の取組を促進させられた。 委員会を活用した取組の充実が図られた。	C	・主体的に行う場面も増えてきたが、まだできる。 ・部活動内でも自主的な行動を促進させたい。 ・委員会が主体性をもって行動していける下地を普段の指導で作る。 ・生徒の活動が少ないので、事前準備に時間をかけて余裕をもって取り組む。	C	B
	⑧	部活動の活性化を推進する	積極的に部活動への加入を呼びかけ、活動の活性化に取り組んだ。	B	・モチベーションを保っていけるような指導法を研究する。 ・苫小牧組が困難（交通面、土日）。部活動自体が盛んな動きと言えるか。 ・まだまだ足りないところが多く、一つ一つできるようにしていきたい。 ・入部への声がけ。	B	B
学校関係者の意見等			・生徒の様子は、以前より良くなっているように感じている。 ・もっと厳しく指導してもらいたい。 ・家庭からの協力は得られているのだろうか。				

	番号	評価項目	評価項目細目	評価	改善・充実の方策		
進路指導	⑨	中学校との組織的な連携を図ったキャリア教育を推進する。	系統的なキャリア教育の推進に取り組み、そのために総合的な学習の時間を有効に活用した。 進路シラバス等を有効に活用し、生徒の進路意識を向上させられた。	C	・キャリア教育に関する話題が雑談の中で出る程度だったので、「推進」と呼べるレベルまで知識を高める。 ・系統的といえない。有効に活用できていない。単発、行き当たりばったりである。 ・学年で実施した総合的な学習の時間の内容はとても良い機会になった。中学校との組織的連携は見えない。 ・系統性が少し欠けていると感じる。 ・進路シラバスについて研究し、進路意識の向上に役立てる。 ・進路シラバス自体の見直しを。	B	B
	⑩	多様化する生徒の進路希望に対応する体制作りと進路指導の実践	計画的な進路指導により、進路決定率が当初の目標に到達した。	B	・実感できる機会が少なかったので、透明な情報共有のシステムが欲しい。 ・もっと進路に関する生徒の声に敏感になりたい。 ・少し業務や資料を見直す必要があるのでは？ ・他の学校と比べても、決定率は高いと思う。 ・面接指導の充実。	B	B
学校関係者の意見等			・卒業時にはどの生徒も進路が決まっていると聞いていますので、今後ともよろしくお願いします。				

		番号	評価項目	評価項目細目	評価	改善・充実の方策		
学校運営	健康・安全指導	⑪	健康管理の徹底	講演会や健康講話等を活用して、効果的に取り組めた。 保健だよりをとおして、健康に対する意識を高めることができた。	B	・体験的な活動を増やし、健康についての重要性を周知させる。 ・保健だよりをもっと活用したい。	A	A
		⑫	安全指導の充実	自転車通学届けの提出が徹底できた。	B	・交通安全委員会との協力体制を作る。	A	A
		⑬	美化意識の向上	風紀委員会の活動と連携して校舎内外のゴミの投げ捨てがなくなった。 保健委員会の活動と連携して定期的に校舎内外の清掃を実施できた。	**B**	・ゴミの散乱は無くなっておらず、委員会を巻き込んだ活動が必要。 ・ゴミはまだたくさん落ちている。まずは教員が率先してゴミ拾いや掃除を行っていく。 ・清掃の機会を増やし、自主的な参加も呼びかける。 ・ボランティア同好会もとてもよく取り組んでいる。	B	B
	学校関係者の意見等			・放課後の自転車の乗り方についての指導もお願いします。				

		番号	評価項目	評価項目細目	評価	改善・充実の方策		
学校運営	信頼される学校づくり	⑭	まちの活性化へ繋がる活動の工夫に取り組む	地域の行事に関わるなど、まちと連携した活動ができた。	C	・地域へのアピールを積極的に行い、活動を知ってもらう。 ・中高の清掃活動は良いと思う。 ・吹奏楽部など、部活動で関わっていたと思う。	C	B
		⑮	積極的な情報発信に取り組む	学校だよりの内容の充実に努めた。 HPの更新に努めた。	B	・次年度より町広報に折り込む。 ・頻繁に更新されていた。	B	B
		⑯	ＰＴＡの活性化に取り組む	ＰＴＡ役員の学校運営への参画意識が向上した。 諸会合への参加者が増加した。	B	・１年次から面談の機会を使った。 ・さらに増加してくれればよい。	A	A
		⑰	学校力向上と学校改善への取組	学校評議員やＰＴＡの意見を学校改善に活用した。	C	・それを知る機会がなかったので、もし意見を適用することがあれば、周知を徹底する。 ・あまり目に触れていない気がします。	C	C
	学校関係者の意見等			・野球部（寮生）の保護者にも連絡が行き渡るように、ホームページを活用してはどうか。 ・保護者の居住地が広域に渡っているので、工夫が必要だと思う。				

		番号	評価項目	評価項目細目	評価	改善・充実の方策		
学校運営	組織運営	⑱	学校の革新と組織の確立に取り組む。	分掌･学年等での協議、工夫、改善に努め、自己評価でＣ項目を減らすことができた。	B	・協議があまりできていない。工夫、改善はもっとすべき。 ・３年生が家庭学習期間に入ってからの指導について、分掌会議で話し合うことができた。ぜひこれから実行していきたい。	B	B
		⑲	運営委員会の活性化を図る	具体的な学校課題について協議され、全体への周知が図られた。	B	・効果を上げるためには全員が実際に行動していることが必要である。 ・周知と理解が一致していない。	B	B
	学校関係者の意見等							

基本評価項目

	番号	評価項目	評価項目細目	評価	改善・充実の方策		
教職員の資質向上	⑳	授業力向上のための研修の充実	公開授業後に研修会を実施するなど、授業力向上のための実践的な取組が図られた。	C	・すべきである。 ・意見していただけて、ありがたかった。	B	B
			中高一貫の特色を活かし、「学びの連続性」の観点から、中学校との教科連携が図られた。		・事前学習をさらに活用する。 ・中学校との連携が不十分。顔を合わせ、教科について話し合う場を作る。 ・これからの課題にしたい。 ・教科連携は図られていない。日時や場を設定しないと、個人では行われない。		
	㉑	資質・能力の向上に取り組む	学校課題解決に向けた校内研修は充実していた。	B	・意見をいただける場面が多くあり、改善に役立った。全体でアイディアをシェアする場がもっと増えると、より充実する。	B	B
			校外での研修会等に参加したあとには要点を職員に報告し、研修成果の共有が図られた。		・資料にまとめて報告する機会が今年度は見られたので、次年度も継続的に行う。		
学校関係者の意見等							